

印象派への道

イタリアの光景 1780—1850

The Romantic Prospect : Plein Air Painters 1780-1850

主催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
 会期：平成16年6月22日(火)～8月15日(日)
 協賛：三共株式会社、JR東海
 協力：日本航空
 企画協力：マティッセン・ギャラリー(ロンドン)
 休館日：毎週月曜日

モネ、ピサロ、ルノワール等、印象派の画家たちは、キャンバスと画材をアトリエから戸外にもちだし、現場で目の前に広がる風景を比較的短時間のうちに油彩絵具で描写した。しかし、印象派の画家たちによるこうした風景画制作の態度と技法は、19世紀後半のフランスで突然現れたわけではなかった。戸外における油彩絵具による風景描写は、印象派より1世紀さかのぼる1770年前後から、フランスではなくイタリア、とくにローマを中心に発展していた。この展覧会は、18世紀後半から19世紀中頃、言い換えれば新古典主義からロマン主義を経て印象派へと向かうヨーロッパで、急激に広まったこの美術現象に着目し、その全体像を主要作家によって紹介するものだった。

なお、本展の準備は、当館学芸課と欧米の研究者・コレクターとの共同作業によって進められ、その意義に賛同した以下のオーストラリア2館が巡回を受けることになった。オーストラリアでの展覧会名は、Plein-

air Painting in Europe 1780-1850 と改められた。

平成16年9月4日～10月31日

Art Gallery of New South Wales, Sydney

平成16年11月19日～平成17年1月16日

The National Gallery of Victoria, Melbourne

展示は、「油彩スケッチ前史」「1770年代と1780年代のイタリア」「新古典主義の油彩スケッチ」「ローマのヴィッラ・メディチの留学生たち」「コローとその世代」「ロマン主義の油彩スケッチ」「北方の画家たち」「ポジリッポ派」「印象派に向けて」など、9セクションで構成された。

■カタログ

30.0×23.0cm 252p.

「本展覧会の開催に寄せて」 小針由紀隆
エッセイ

「戸外制作による絵画」考 フィリップ・コニスビー

「風景画における近代性」 サラ・フォーンズ

「ローマ近郊の風景を描く」 小針由紀隆

作家・作品解説

参考文献一覧

作家・作品解説(英文)



▲ ポスター



▲ カタログ

■関連事業

美術講座（いずれも14：00－15：30、講座室）

7月3日（土）「オイル・スケッチの楽しみ方」

小針由紀隆

7月17日（土）「ローマにしかない風景の発見」

小針由紀隆

7月3日（土）「ローマにきた19世紀フランスの

画家たち」 小針由紀隆

■出品目録 P.92-5 参照